

令和6年度ICT研修会

— 学校教育に活用できる習熟度別研修 —

情報支援部/研修支援部

1 はじめに

本研修は、教育現場における ICT 技術の効果的な活用をめざし、教員のスキル向上を支援することを目的として実施した。現代の教育現場において、ICT 機器やクラウド、AI ツールなどは授業の質を向上させるだけでなく、教員の業務効率化や児童生徒の主体的な学びを促進する重要なツールとなっている。本研修では、ICT 機器の基本的な使い方や Google システムを活用した教材作成方法に加え、AI の教育活用に関する最新事例を学ぶ機会を提供することを目的とし、実践的な演習を通じて、参加者が具体的な課題を解決し、自信を持って日々の教育活動に活かせるスキルを習得することをめざした。以下に、各研修の概要と成果について報告するものである。

2 研修概要

日 時	令和6年8月26日（月）10:00-11:30
場 所	刀根山支援学校本校（他部署交流室・会議室・音視室）
講 師	情報支援部担当教員2名、研修支援部担当教員1名
対 象	刀根山支援学校教員 研修参加者：18名
テーマ	研修① 教員 ICT 機器活用能力のボトムアップ研修 研修② 教員の Google システム活用のスキルアップ 研修③ AI の教育活用について事例紹介と簡単な演習

3 研修内容

今年度の研修は、本校教員の研修に期待するニーズを事前アンケートにて把握し、情報支援部で研修内容の選定を行ない、3つの研修を企画することとした。

研修①【教員 ICT 機器活用能力のボトムアップ研修】『ICT 全般何でも相談』

基本的な ICT 機器についての知識や使用法などについて、教員から質問を募り解決していく形で研修会を行った。『ブラウザの違いについて』主として使用される chrome、safari、edge の主に3つについて、エラーの多さ、安全性などの面で違いがあり、どのブラウザを使用しているのか意識しながら使用することが大切である。『Zoom の使い方について』基本的な Zoom の使用方法についてパソコンを操作しながら研修を行った。楽器を使用するときの音声の設定や画面共有の際の設定方法などについて学び、実際に使用した。その他、疑問点について共有し、解決していく形で研修を進め、実際に操作を行いながら ICT 機器の活用法について考えることができた。

研修②【教員の Google システム活用のスキルアップ】

『Google システムを活用した教材作成および学習の事例について』

この研修の目的は、授業において教員が端末を操作して子どもを待たせるのではなく、「子どもが端末を操作する」、「教員が子どもを待つ」ための環境を整えられるようになることである。そのための一歩として、「①classroomを活用し、自分なりの授業環境を

Ⅱ 校内研修

作る」「②個の成果を発表し学び合う」の 2 点を目標として実施した。発表を通して、「これまで作成したスライドや動画教材の一覧場所として活用できる」や「算数で使いたい動画をあらかじめリストアップして分類できる」、「始まりの会で使う、動画や歌、各季節の写真などを整理できる」など、それぞれの部署の実態に合った活用アイデアが生まれた。

研修③【AI の教育活用について事例紹介と簡単な演習】

「AI（人工知能）」についての基本概念を学び、その実践的な活用方法を探求した。研修の第一部では、AI の基本原理や現在の技術的進展について説明し、特に教育分野での可能性を事例紹介した。次に、AI ツールの具体的な利用例として、Copilot、ChatGPT、Gemini などの機能を紹介し、授業準備や学習支援にどのように役立てられるかを事例紹介した。また、実際の演習を通じて、画像生成ツールや Gamma など生成 AI 技術を試す機会を設け、教材作成や教育の質を高める方法を体験的に学んだ。本研修を通じて、教員自身が AI を活用し、児童生徒に新しい学びの体験を提供できる自信を深められたと感じている。

4 次年度に向けての課題とまとめ

本年度の研修を通じて、教員の ICT 機器活用能力や AI 技術の理解が向上し、具体的な授業への活用の糸口をつかむことができた。しかしながら、次年度に向けて、いくつかの課題が明らかになった。

まず、研修内容の定着度には個人差があり、ICT 機器や AI の活用スキルを継続的に向上させるためには、さらなるフォローアップや定期的な研修の開催が必要である。また、特に AI 技術については、教員が実際にどのように授業や業務に組み込むかといった具体的な応用例の共有が不足しているため、次年度は事例の収集と共有の場を充実させる必要がある。

さらに、研修で学んだスキルを日常的な実践に繋げるため、時間やリソースの確保、校内でのサポート体制の整備も課題として挙げられる。特に、Google システムの活用や AI ツールを使用する際、初期段階での技術的なサポートが重要であることが判明した。

次年度はこれらの課題を踏まえ、研修内容の深化と支援体制の強化に取り組むことで、教員一人ひとりが自信を持って ICT 機器や AI を活用できる環境づくりをめざしたい。